

【テーマ】

早期からの適切な就学先決定に向けて支援の充実

第1回北海道教育支援委員会での意見

協議テーマ

- 保護者に対して就学・進学に関わる理解啓発を図る上で必要な情報
- 教育支援の充実に向けた市町村教育支援委員会の在り方

- 1 子どもが成長したときに、どういう就学、進学をしていくのか、あるいはどのような就労をしていくのかといったことを理解するための情報が極めて少ない。就学から就労までの見通しをもちながら、目の前の子どもの指導に当たることは極めて大事であり、このことは保護者にとっても同様。
- 2 就学に際しては様々な選択肢があること、一度決めた学びの場でも柔軟に変更できることを保護者が理解していることが大切。保護者の方への情報共有は、冊子などがあると良い。
- 3 どこの教育委員会も就学事務の担当者は3、4年で代わる。引き続き、担当者研修を継続的に実施していくことが必要。

令和5年5月31日付け教特第283号「教員等の特別支援教育に関する専門性の向上について」(通知)

各道立高等学校長 様
各市町村教育委員会教育長
(各市町村立学校長)

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課長 大畑 明 美
北海道教育庁学校教育局義務教育課長 遠藤 直 俊
北海道教育庁学校教育局高校教育課長 相馬 利 幸
北海道教育庁学校教育局教職員育成課長 和田 宏 一
北海道教育庁幼児教育推進局幼児教育推進センター長 田口 範 人

教員等の特別支援教育に関する専門性の向上について (通知)

このことについては、令和4年12月に中央教育審議会がまとめた『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(報告)において、教員に共通的に求められる資質能力として、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」に関わる事項が明確に示されたところです。

こうしたことを踏まえ、道教委では、本年3月に改訂した「北海道における教員育成指標」や本年度から5年間を計画期間とする新たな「特別支援教育に関する基本方針」において、全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上を重点の一つに位置付け、施策の充実・発展に取り組むこととしました。

つきましては、各所属において、「特別支援教育に関する基本方針」の趣旨を踏まえ、次の事項に留意の上、全ての教員が特別支援教育に関する専門性を高める取組を推進願います。

なお、市町村教育委員会においては、所管する学校に周知していただきますようお願いいたします。

記

1 教員等の特別支援教育に関する資質能力の向上に当たり、次の資料を提供していますので、活用願います。

- ・オンデマンドを含めた研修講座や研修教材を取りまとめた「研修Linkナビ」
- ・「N I S E学びラボ」(国立特別支援教育総合研究所)と「特センライブラリ」(道立特別支援教育センター)等をまとめた「教職員の専門性の向上に向けたキャリアステージごとの研修一覧」(別添)

2 本年4月から実施されている「新たな研修制度」を踏まえ、学校管理職は、所属教員の意欲や主体性を尊重しながら、対話を繰り返す中で、一人一人のキャリアステージや専門性等に応じた受講奨励をお願いします。

3 今後、道教委において、管理職対象の特別支援教育に関する研修会を実施する予定であり、詳細は、別途通知しますので積極的に参加願います。

- (特別支援教育制度推進係)
- (義務教育指導係)
- (高校教育指導係)
- (人材育成・教育研究所整備推進係)
- (幼児教育推進係)

教職員の専門性の向上に向けたキャリアステージごとの研修一覧 (管理職員)

特別支援教育(特セ)	教育理念とリーダーシップ		学校・園内外の共同体を構築する力	
	特別支援教育充実セミナー			
	管内市町村就学事務担当者等研修会			
特別支援教育(N I S E)	通常の学級コース (教職員部会)			
	特別支援教育全般 ・特別支援教育の現状と課題等	目障がいの理解 ・各障がいの理解と関わり方について	学びの場に応じた指導実践 ・通常の学級における特別支援教育について ・高校段階における特別な教育的支援が必要な児童のケースに応じた指導や支援	特別支援教育コーディネーターの役割 ・特別支援教育コーディネーターの役割
	特別支援教育の実践 ～通常の学級における「特別な配慮」～ 【校内研修シリーズ No.17】	自閉症スペクトラム当事者からみた特別支援教育 【校内研修シリーズ No.70】	学校における医療的ケアについて 【校内研修シリーズ No.115】	
特別支援教育(N I S E)	特別支援教育総論 学習のユニバーサルデザイン 【校内研修シリーズ No.119】		多様な学びの支援～新学習指導要領「障害のある児童等」に応じた指導や指導方法の工夫」を実現するための～ 【校内研修シリーズ No.77】	
	特別支援教育全般 ○ インクルーシブ教育システム関連 ・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築【1】 ・特別支援教育の視点を生かした学校経営【19】等			
	特別支援教育全般 ○ 役割と連携 ・小学校・中学校管理職のための特別支援学校における教育課程編成【40】等			

教職員の専門性の向上に向けたキャリアステージごとの研修一覧 (通常の学級)

特別支援教育(特セ)	初任段階 ・特別支援教育の動向や特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、教育のニーズ等に対応している。 ・組織的な対応に必要な知識・具体的な支援内容・体制を理解し、学習上、生活上の支援を工夫している。		中堅段階 ・特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を深く理解し、教育のニーズ等に的確に対応している。 ・学校(園)における特別支援教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて組織的に学習上、生活上の支援を工夫している。		ベテラン段階 ・特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を深く理解するとともに、全ての子どもを俯瞰し、教育的ニーズ等に的確に対応している。 ・学校(園)における特別支援教育推進上の課題解決に向けた組織的・学習上、生活上の支援の工夫などについて、範を示すための指導も行っている。	
	オンライン授業改善セミナー					
	通常の学級コース (教職員部会)					
特別支援教育(N I S E)	高等学校コース					
	特別支援教育全般 ・特別支援教育の現状と課題等	目障がいの理解 ・各障がいの理解と関わり方について	多様な学びの教育実践 ・各障がいの理解と関わり方について	学びの場に応じた指導実践 ・通常の学級における特別支援教育について ・高校段階における特別な教育的支援が必要な児童のケースに応じた指導や支援	支援体制づくりマネジメント研修講座	
	特別支援教育の実践 ～通常の学級における「特別な配慮」～ 【校内研修シリーズ No.17】	学校における医療的ケアについて 【校内研修シリーズ No.115】	自閉症スペクトラム当事者からみた特別支援教育 【校内研修シリーズ No.70】	教職スタッフ講座(小学校版)「特別支援教育」 【基礎的研修シリーズ No.25】		
特別支援教育(N I S E)	特別支援教育総論 学習のユニバーサルデザイン 【校内研修シリーズ No.119】		特別支援教育全般 ○ インクルーシブ教育システム関連 ・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築【1】 ・障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援【17】等			
	障害種別別の専門性 ○ 発達障害 ・通常の学級におけるASDのある児童生徒の指導の対応【123】 ・発達障害のある子どもの通常の学級における支援【131】等					
	通常の学級における学びの継続性に応じた対応 ○ 小学校段階 ・小学校段階【147】等 ○ 中学校・高等学校段階 ・中学校段階【160】等					

令和5年7月18日付け教特第514号「障がいのある子どもの教育支援について」（通知）

各 教 育 局 長
道立特別支援教育センター所長 様
各市町村教育委員会教育長
(各市町村立小・中学校長)

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課長 大畑 明 美
北海道教育庁学校教育局義務教育課長 遠藤 直 俊
北海道教育庁総務政策局教育政策課長 荒川 裕 美

障がいのある子どもの教育支援について（通知）

このことについては、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）を計画期間とする新たな「特別支援教育に関する基本方針」において、適切な就学先の決定及び就学時に決定した学びの場の柔軟な見直しを図られるようにすることを重点の一つに位置付け、障がいのある児童及び生徒に適切な教育を受けさせるための支援を行うことを目的に設置した北海道教育支援委員会において、そのための具体策について検討したところです。

つきましては、障がいのある子どもの教育支援の充実に向け、市町村教育委員会、教育支援委員会及び小・中学校等に留意いただきたい点を別紙にまとめましたので活用してください。

記

○ 関係通知・資料等

- 令和5年（2023年）3月29日教特第1579号「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について（通知）」
- 令和5年（2023年）3月「教育支援のためのハンドブック（改訂版）」（北海道特別支援教育振興協議会）
- 令和5年（2023年）2月7日付け教特第1323号「『特別支援学級における適切な教育課程の編成に関する資料～児童生徒一人一人の学びの充実に向けて～』について（通知）」
- 令和4年（2022年）5月16日付け教特第195号「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」
- 平成25年10月4日付け25文科初第756号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」

(特別支援教育制度推進係)
(義務教育指導係)
(定数政策係)

教育委員会

障がいのある子どもの教育支援の充実に向けて

就学先の決定や学びの場の見直しに当たっては、インクルーシブ教育システムの推進に向け、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、可能な限り同じ場で共に学ぶことを目指すべきであり、その際には、それぞれの子どもが、授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうかという最も本質的な視点に立つことが重要です。

- 就学先決定のプロセスを保護者に分かりやすく示し、適切な就学先の決定を円滑に行うことが必要です。
- 教育支援委員会等を起点に、特別支援学校又は小・中学校等という就学先を検討するだけでなく、小・中学校等に就学する場合は、通常の学級、通級による指導、特別支援学級の学びの場の判断についても様々な関係者が多角的、客観的に検討することが必要です。
- 学びの場の判断・決定に当たっては、障がいの状態のみに着目して画一的に検討を行うのではなく、子ども一人一人の教育的ニーズを明確にし、具体的にどのような支援が必要とされるかを整理することが必要です。
- 就学時に決定した「学びの場」は、固定したものではなく、それぞれの児童生徒の発達程度、適応の状況等を勘案しながら、柔軟に変更ができることについて、全ての関係者が共通理解を図ることが必要です。
- 個別の教育的ニーズのある子どもの自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、連続性のある「多様な学びの場」を整備する観点から、通級指導教室を設置していない市町村教育委員会においては、その設置を検討することが必要です。

第1回 管理職のための特別支援教育に関する研修会

講演 特別支援教育の充実について

講師 生方 裕 氏 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課企画官)



日時 令和5年(2023年)7月19日(水) 9:50~11:30

方法 集合及びWeb会議システム (Zoom)

参加者 **922名** (小:467名、中:263名、高:100名、その他:92名)

※オンデマンド視聴数

1,186件 (12月3日現在)

【参加者の感想等】

- 教頭やコーディネーターと連携し、校内体制等について再確認、再検討の資料としたい。本校にも特別支援学級があるので、通常級の教職員による授業参観や、学習指導の経験などに取り組んでいきたい。(小学校長)
- 特性がある子などを通級→特別支援学級とつなげて考えやすいですが、「通常の学級でできる支援をまず考えること」という言葉が印象的でした。職場でも投げかけ、わかる授業や手立てを具体的に考えていきたいです。(小学校長)
- 校内体制の見直し、生徒本人の困り感や保護者からの相談を受けた適切な支援のあり方と学びの場の設定について、アセスメントを充実したいと考えています。(中学校長)
- 通常の学級で学んでいる生徒の発達障害などの状況を把握し、必要な支援を指導者間で共有できるよう校内体制を機能させたい。(中学校長)
- 本日の御講演内容を校内管理職や主任等と共有し、特別な教育的支援を必要とする生徒への具体的な支援の在り方について検討していきたいと思っております。特に、医療的ケア児への支援については、今後増えていくことが予想されることから、事前の体制づくりに生かしていきたいです。(高校校長)
- 校内支援体制の充実に向け内規を見直し、校内委員会の機能強化を図る。(高校校長)

第2回管理職のための特別支援教育に関する研修会

講演 特別支援教育コーディネーターの育成と活用について

講師 田中雅子氏 (北海道教育大学釧路校准教授)



日時 令和5年(2023年)8月8日(火) 9:50~11:30

※オンデマンド視聴数

方法 Web会議システム (Zoom)

707件 (12月3日現在)

参加者 **618名** (小:321名、中:174名、義:18名、高:69名、特:23名、その他:13名)

【参加者の感想等】

- 今年から導入した「特別支援教育ロードマップ」を通して、全職員ともっと本校の課題について話し合い、全職員に自分事として考える体制を作りたい。(小学校長)
- 日常的なコミュニケーションや期首・期末面談等を生かした教職員との対話から、それぞれの役割や責任を「やりがい」に感じる人材育成に取り組む。(小学校長)
- 本校の特別支援教育の充実にとどまらず、自らの学校経営に「対話」「つなぐ・むすぶ・わたす」を具現化させる。(中学校長)
- コーディネーターを特別支援の枠だけでなく校務のひとつとして全体に周知していく。(中学校長)
- コーディネータを軸に、各学年の役割分担を確立させることで、特別支援体制を再構築する。(高校校長)
- 特別支援教育コーディネーターと、短時間でも良いので、定期的に対話をしようと考えます。コーディネーターの考えを経営に活かせたらと思います。(高校校長)